

新・総合計画策定懇談会（第4回）議事録

1 日時

2020年9月9日（水） 15時30分～17時30分

2 場所

群馬県庁6階 秘書課会議室（Web会議）

3 出席者数

策定懇談会構成員12名、県関係者約25名

4 議題

新・総合計画ビジョン検討案について

5 構成員の主な意見

（新・総合計画ビジョン検討案について）

- ・ 始動人について、これは熱量があつてすごくいいと思う。国の未踏人材というのも、最初はなんじゃそれって話だったのが、思いを持ってやり続けると、ものすごいブランドというか、何か未来を感じる言葉として定着しているが、始動人はそういうふうになる可能性がすごくある。
- ・ 有識者のコメントをいっぱい足されているので、結構借りてきた言葉が多く、寄せ集めみたいになっている。その辺を別の言葉で言い換えたり、解説文を参考資料にしたり、文化の話なんか置き換わっていくと、ものすごくパンチのあるビジョンになるかなと思う。
- ・ 行政のデジタル化は、色々なところが手続きのデジタル化という言葉に置き換え過ぎていると思っていて、手続きがデジタル化するのは、単にツールを入れるだけの話である。
- ・ 行政職員は始動人にならなければいけないということだと理解した。特に住民の最初の窓口となる基礎自治体をどう巻き込むか、基礎自治体がこのビジョンをどれだけ目指していくかという活動が大切なんだと思う。
- ・ 色々なところと協力して、色々な人が活躍できるようにしましょうということ、皆同じように言うが、具体的にどうしていくのか。ここに書いてあることを行政職員が思想として考えてくれるようなステップを同時に持った方がいいと思っている。ただ、文言を読んで分かりましたということと、それを具体的にできるのかとか、本当に感じて分かっているのかということと乖離することが多く、中々実現されない。
- ・ 一人ひとりが当事者意識を持てるようにすること。それこそ、21、22世紀の未来社会のデザインで一番のキーワードになってくるのが、誰一人取り残さないということ。取り残さないというと、守ってあげる感じがするが、最終的には一人ひとりが文化の担い手であり、社会の担い手であることを改めてより強調していくということ。
- ・ 自分もこれに関係しているんだと、クレドも大事だが、何か遠いことじゃなくて自分でもできるかも、ここにちょっとチャレンジしてみたいとか、何か思わせるような場なり、環境なり、仕組みなり、何か仕掛けみたいなものが、今後の具体施策の中で、意識して作られると、面白いのかなと思う。

- 具体的に絵を描いた後、どう実行するかというところが、非常に重要な気がしている。
- 群馬県の中で始動人という人材が貴重なんだということ、どうやって伝えていくのかということ、をずっと考えている。加えて、この成功事例を、群馬県の基礎自治体で作っていかねばいけないとも考えている。
- 県民の皆さんに、今後 20 年、またそれよりも長い年月の中で、群馬県人であることに対して誇りを持ちながら、また始動人として新たなチャレンジがしていける計画だと思うので、ビジョンの中の言葉については、一般的な言葉と、群馬県民の心に響く言葉の二重表記でもいいのかなと感じた。そこは造語でも全然構わないし、その思いがその言葉に入っているというのはいいのではないかなと思っている。
- 誰一人取り残さないという部分においては、当然予防も色々しながらも、結果コロナとかそういうことが起こった時にも、その人たちを排他するのではなくて、群馬県で守っていくんだよというような部分のメッセージがあったらいいなと感じた。
- 詳細な説明を入れていただいたので、分かりやすくなったし、内容的にも厚みが出てきた。反面、あまりのボリュームに驚いた。なので、県民の方たちが読みやすい、漫画だとか色々な形があると思うが、パッと見られるような簡便型があるといいのかなと思う。
- ニューノーマルというと、やっぱりポストコロナの時代のニューノーマルな生活という意味で、コロナに結びつけて考えられる。ビジョンは 20 年使われるものなので、今、よく使われているニューノーマルを題名に置いていいのかなという気がした。
- 始動人について、例えば、若者に始動人というコンセプトを話しても皆が皆、大学生くらいから始動人を意識し始めるものではないし、特定の数だけ始動人のカケラがあるということでもないと思うので、大事なのは皆が小さい時から自主的に興味のあるものに手を伸ばせる環境があるとか、その手段があるとか、情報が分かりやすく面白く、群馬県独自のものがたくさんあることが大切。
- 今はネットが充実しているので、自分の興味のあるものを自分で選んで、情報収集できる。これが、例えば Google でググる他にも群馬とか、前橋とか、高崎といった地域を自分の身近に感じて、何かを発信しているものがあると、より参考になるとか、よりここの群馬にいながら、群馬を感じることができる。
- 巻き込んで浸透させて、皆が理解すれば、ビジョンやゴールといった目指す行動にアクションプランが生まれる。
- ビジョンに則って、具体的な施策としてどうやっていけるのか。それも、それぞれの方々が当事者意識を持って実際に一緒にやっていけるのか、そこが肝だと思う。インクルーシブデザインというキーワードがあるが、障害者の方々なども含め関係する人々がそのデザインプロセスに入って一緒に作り上げていく。その視点でこの施策を作る時、或いは官民共創コミュニティ関係の部分においても、関係する人々だけでなく関係人口の方々にも入っていただいて、地域のビジョンを作っていくことによって、当事者意識が作れるのではないかと、それがひいては始動人にも繋がっていくのではないかなと思う。
- ビジョンのキーワードとして、開疎化と始動人という二つの言葉がある。始動人は何か分かりそうな感じの言葉だが、開疎化の開の部分、何をイメージしたらいいのかわからなかった。豊かな自然をイメージするのか、人の心を意味するのか、その辺の意味をはっきりしていただくといいかなと思う。
- 外国の方がたくさん働いている地域では、ごみの出し方ができていないと、住民はやっぱり外人かと言う。それに伴って役場の人は、その国の言葉に訳したごみの出し方

の資料を作ろうという感じ。そうではなくて、アウトリーチの感覚で、その国の方が働いている企業に赴いて、色々な説明をするぐらいの気概がないと、やっぱり文化習慣の違う人たちとは、上手くマッチングはしないのではないかな。これからの施策をやっていく時に、現場との距離をどれだけ縮められるかというのが、大きな課題になるのかなと感じている。